

社会福祉センターの再生イメージ（5本柱）

東村山市は多摩地域でも高齢化が進んでいる状況にあり、福祉分野においては、健康寿命の延伸や、人とつながり生きがいを持った生活のための居場所づくりの実現が必要です。そのため、社会福祉センターの再生にあたっては『住み慣れた地域で、人とつながって生活していくための居場所づくり』を共通理念としています。

① 多種多様な職場開拓 【資料1】

シルバー世代等を中心とした『生活に関する問題（住まい・借金等）は抱えていないが、将来的な困窮が想定される方』に対し、寄り添い方の就労支援等を行うことで、生活困窮への予防・早期発見を図る。

② 福祉作業所 【資料2】

現在の利用者に配慮しつつ、高齢者等の就労の場である福祉作業所について、さらに就労機会の提供という機能を高めた場へと、段階的に移行していく。

③ 健康寿命の延伸と地域醸成加速に向けた事業 【資料3】

自助や互助（共助）を広げていくことを目的に、「地域づくり・地域の醸成」に主眼を置いた集いの場の提供。

④ 知的障害成人余暇活動支援 【資料4】

主に知的障害のある成年・成人期の方の休日・就労後の居場所作り。

⑤ 喫茶コーナー（中間就労や人とかかわるための喫茶コーナー） 【資料5】

社会福祉センターの機能を連携させることを目的に設置。中間就労の場として活用できるほか、集会室へのお茶の販売、地域活動後の飲食等により「人とつながるための場」として活用。